



# 学校だよりの かけ橋

横須賀市立汐入小学校 校長室



## たてわり班の活動



本校では、例年、たてわり班の活動を通して、学年の枠を超えたふれあいを深め、子どもたちに、役割感・達成感・自己肯定感を持たせることができるように取り組んでいます。今年度も第1回目のたてわり班の活動がスタートしました。

6年生が中心になって、6つの班に分かれて、1年間様々な活動を行います。4月14日（木）の朝の時間に、はじめての顔合わせがありました。

はじめてと言うのは、誰もが緊張します。しかし、そんな中、6年生は立派でした。自己紹介をしたり、並び方を指示したり、限られた時間内に決められたことをきちんとやろうとがんばっていました。年齢的には、妙な照れが出て、なかなか人前で話すのが苦手になる時期です。しかし、汐入小の6年生は、しっかりと役目を果たしていました。



これは、担任の先生による事前の細かい指導はもちろんですが、今までの先輩たちが培ってくれた伝統の力によるところも大きいと思います。今までの上級生の姿を見て、子どもなりに理想の6年生像を持って、進級している結果なのではないでしょうか。

これから、春の全校遠足やふれあい給食など次々に楽しい活動があります。教師が指導するのはまた違った経験が、子どもたち一人ひとりの学びになることを期待しています。

## ホツとする一言

「あー、きれいになって気持ちがいいね。」

汐入小学校では、1年生の時から、教室掃除だけではなく出張掃除ということで、教室以外の場所にも掃除に行っています。校長室前の廊下を掃除していた子が、言った一言です。

誰に言われたのでもなく、その子の心から出た言葉なので、何だか聞いているこちらもうれしくなりました。

「ごくろうさま。」 「ありがとう。」

朝の職員室に、図書情報委員会の子どもが、新聞を取りに来ます。毎朝、新聞スペースに持って行くためです。その子に対して、先生がかけた言葉です。さりげない中に、暖かさが感じられました。

ていねいで美しい言葉を遣うと心まで美しくなるような気がします。逆に、乱暴な言葉を遣うと心までザラザラしてくるようです。また、当たり前のことでも、改めて言葉にすることによって、心がつながりあうこともあります。私たち大人も日々の生活の中で心がけたいものです。

## 家庭学習のすすめ

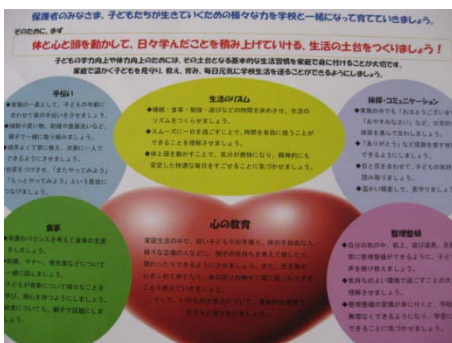
明治時代に、福沢諭吉の「学問のすすめ」が出版されました。1872年（明治5年）のことです。奇しくも、汐入小学校が「稲岡学舎」として創立した年です。「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」という一節は有名ですが、その次に続く部分は、意外に知られていないかもしれません。以下は、現代文に訳したものです。

「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」と言われている。人は生まれながら貴賤上下の差別ない。けれども今広くこの人間世界を見渡すと、賢い人、愚かな人、貧乏な人、金持ちの人、身分の高い人、低い人とある。その違いは何だろう？それは甚だ明らかだ。賢人と愚人との別は、学ぶと学ばざるとに由ってできるものなのだ。人は生まれながらにして貴賤上下の別はないけれど、ただ学問を勤めて物事をよく知るものは貴人となり、富人となり、無学なる者は貧人となり、下人となるのだ。」

140年近くたった現代でも、学びの重要性は変わりません。学校では、学習指導要領に基づいて、日々の教育活動を行っています。ただ、学校だけでは、なかなか身につかない部分があります。ご家庭での取り組みが重要になります。

しかし、学校での学習と同じことを家庭でやっても、あまり意味がありません。

- 何のために家庭学習をやるのか？
- 何分くらいやればよいのか？
- 家庭学習で気をつける点はどんなことか？
- 保護者としての心がまえは？
- 長続きさせるポイントは？



先日、各クラスで横須賀市教育委員会発行の「家庭学習のすすめ ～保護者のみなさまへ～」というリーフレットが配布されたと思います。そこに、上の疑問に対する答えが書かれています。また、裏面には、子どもたちの「生きる力」を育てるために学校とともにご家庭にご協力いただきたいことも書かれています。是非、じっくりとお読みいただき、できるところからはじめていただきたいと思います。

「そんなリーフレット見たことがありません。」という保護者の方、ご連絡ください。お渡しいたします。学校とご家庭と力を合わせて、よりよい「汐っ子」を育てていきましょう。

